

参入事例

①

株式会社 みつの里



●農業経営の概要

所在地：岡山県岡山市北区御津草生824-1
参入形態：農地所有適格法人（平成25年設立）
経営品目：トマト30a、ミニトマト6a、水稲 6ha
資本金：1,000万円
労働力：従業員4名、外国人実習生2名、パート1名
関連会社：成広建材株式会社（事業内容：砕石業ほか）

（調査年月日：令和3年2月）

～地域の支えとなる経営体に～

農業参入の目的

高齢化と過疎化が進む御津地域の活力になればと、平成24年に農産物直売所「みつの里」を開設し、併設したコンビニエンスストアとともに運営を始めたが、直売所運営では、地元農家の野菜や県特産果実が好評となる中、年間通した農産物の供給と目玉商品の育成が課題となった。そこで、安定した品揃えと特産品づくりを目指して農業生産を決意し、参入に至った。



法人が運営する直売所「みつの里」

農地の確保

年間通して供給できる品目として導入したトマトは、平成26年に御津地区で農地17aを購入し、ハウスを設置して経営を開始した。経営の開始にあたっては、経営改善計画の認定を受けて認定農業者となり、スーパーL資金を活用してハウスを整備した。令和元年には、同地区内に16aを借りて規模を拡大した。



法人が設置したトマト栽培ハウス

また、法人では後継者不在の水田が増えつつある現状を危惧し、自ら水稲経営も手掛ける。農地は、利用権設定や農地中間管理機構との契約分が約1ha、法人役員からの貸借が約5haある。

農業経営の経緯や現況

<生産部門>

- ・トマト栽培では、株の個体管理が容易で、病害発生時の対処がスムーズにできる独立ポット型の養液土耕栽培を採用。さらに、高度環境制御・栽培管理システムを採用し、温度・炭酸ガス濃度・養液量等の管理を自動化し、省力化を図っている。これらは、県外産地への視察などから選定し、生産性や作業性、地域の気候への適性を考慮している。栽培では、施設メーカーの協力を得て、自社の栽培条件に適した手法を共

同で確立している。

- ・トマトは、大玉種（桃太郎ヨーク、りんか）とミニトマト（アイコ、ジュリエッタ他）を、酸味や糖度等を基準に選定し、2か所のハウスで各3名が栽培作業にあっている。
- ・水稻は、計6haで「きぬむすめ」「アケボノ」を栽培し、籾摺り・乾燥・調整作業は、近隣の営農組合に委託している。



収穫後の大玉トマト

<販売>

- ・トマトは、生産量の7割を自社運営の直売所で販売しているほか、市場出荷や岡山市内の量販店内の直売コーナーでの販売も行っている。
- ・米は、岡山市内の米集荷・販売業者へ販売するほか、同直売所でも「みつの里米」として販売し、ブランド化を図っている。



みつの里米

農業参入の効果や課題等

- ・地域には小規模な農家が多く、売り先がなく処分される農産物もあった中、開設した直売所「みつの里」は、地域における農産物の新たな販売拠点となった。
- ・後継者不在の水田を借りて経営することで、耕作放棄地の解消だけでなく、地域農業の担い手として重要な役割を果たしている。
- ・6次産業化へ取組が広がり、平成28年には国の6次産業化認定を受けて、新たな地域特産品となり得るトマトジャム・ドレッシングが誕生した。

今後の展開

- ・トマトでは、県内に類似したシステムを用いた栽培例がなく、手探りで技術を磨いてきたが、さらに経験を積み、品質向上と高単価での販売に努めていく。
- ・水稻経営は、ほ場数が約30枚にのぼり、大型農機が使用できない場所もあるなど、厳しい状況下で、まずは経営を軌道に乗せることが先決である。
- ・地域農業の担い手として、また、地域に雇用を生む経営体として、地域を永続的に担っていける存在を目指していく。

農業参入を目指す企業へ

どんな事業でも言えますが、農業経営も初期投資に多額な費用が掛かります。農地所有適格法人を立ち上げて参入する形態にもメリットはありますが、お金や時間を要するので、まずは現在の法人の一事業部門として農業経営を始めることも視野に入れるべきだと思います。

また、水稻経営は、収量・価格とも安定しづらく、特に厳しい経営になることも想定されるので、収入のベースとなる品目を持つておくことも必要です。栽培経験が少ない者でもチャレンジ可能な、システムが確立された品目もありますので、農業参入する前に十分なリサーチを行い、収益性などを検討しておくことが必須です。